

【研究費区分】：②ミニ研究環

【研究代表者所属】：人文科学研究科

【研究代表者氏名】：西山雄二

【研究代表者氏名フリガナ】：ニシヤマユウジ

【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

郷原佳以（東京大学・大学院総合文化研究科・准教授）

星野太（東京大学・大学院博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム（IHS）」・特任助教）

宮崎裕助（新潟大学・人文学部・人間学講座、准教授）

藤本一勇（早稲田大学・文化構想学部・教授）

亀井大輔（立命館大学・文学部・准教授）

Patrick Llored（フランス、リヨン第三大学、講師）

Jérôme Lèbre（フランス、国際哲学コレージュ、プログラム・ディレクター）

Gisèle Berkman（フランス、国際哲学コレージュ、プログラム・ディレクター）

【研究環組織名】：日本における「フレンチ・セオリー」の受容と展開

【研究環 HP（*本研究環組織の HP を作成している場合は、その URL を記入してください。）】

・ <http://www.comp.tmu.ac.jp/decon/index.html>

【研究環の活動概要と、ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】（600～800字程度で記入。図（組織図含）、グラフ等の使用も可。）

本研究の目的は、日仏の比較思想研究の一環として、日本における現代フランス思想の受容と展開を総合的に考察することである。1960年代以後、実存主義・構造主義・ポスト構造主義といった「フレンチ・セオリー」は、日本を含めて世界の人文社会科学に多大な影響を及ぼし続けてきた。人類学のレヴィ＝ストロース、脱構築思想のデリダ、哲学のドゥルーズ、精神分析のラカン、権力論のフーコー、文学批評のバルト、消費社会分析のボードリヤールといった思想家たちは、20世紀後半、人文科学の発展に大きな貢献をもたらした。日仏の思想交流を考察し、さらに発展させるため、本研究では、①パトリック・ロレッド氏を招聘して、とりわけ動物倫理の最新の思想的展開について東京・京都で講演会を4回実施した。②2016年3月、パリで国際哲学コレージュとの共催でシンポジウム「日本におけるフレンチ・セオリー」を開催した。日本人研究者7名が日本におけるフランス思想の受容と発展、課題について発表し、フランス人研究者3名にコメントを加えてもらうことで双方向的な討議をおこなった。「フレンチ・セオリー」

と日本文化の交流をパリで論じるという前例のないシンポジウムとなった。これまで蓄積されてきた日仏の思想交流をこの機会に国内外でネットワーク的に展開させることで、本研究は日本の人文学の国際的な連携に寄与することができた。また、学術論文も精力的に刊行され、ロレド氏の招聘講演は『人文学報』(512-15号)に翻訳掲載された。

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月を記入）】

« La crise de l'université et la question des Humanités dans Jacques Derrida, *L'université sans condition* », Colloque international "Université ou anti-Université?", Paris, Maison Heinrich Heine, organisé par Collège international de Philosophie (CIPh), 14-15 octobre 2015.

« L'adresse de l'entre-nous: l'interprétation plastique de Hegel chez Jean-Luc Nancy », Colloque international "Mutations - autour de Jean-Luc Nancy", Université de Strasbourg, organisé par Université de Strasbourg et CIPh, 18-20 novembre 2015.

「ジャック・デリダ『哲学への権利』をめぐる」、共同ワークショップ「ドゥルーズとデリダ」、グランフロント大阪北館タワー、主催＝脱構築研究会、科学研究費助成事業基盤研究（B）「ドゥルーズ研究の国際化拠点の形成」、2015年12月20日。

Écrans philosophiques : « Comment représenter la catastrophe après les événements à Hiroshima et à Fukushima ? », Cinéma Méliès de Montreuil, organisé par CIPh, 17 mars 2016.

« Jacques Derrida au Japon », Journée d'étude "French Theory au Japon", Paris, Maison Heinrich Heine, organisé par CIPh, Université métropolitaine de Tokyo et The University of Tokyo Center for Philosophy, 19 mars 2016.

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月を記入）】

〔書籍〕

齋藤元紀編『連続講義 現代日本の四つの危機 哲学からの挑戦』、講談社選書メチエ、2015年、分担執筆＝「大学の危機と哲学の問い」、67-90頁。

“After the End of the World: in an Apocalyptic Tone by Jacques Derrida”, Futoshi Hoshino and Kamelia Spassova (eds.), *The Sublime and the Uncanny (UTCP Booklet 27)*, 2016, pp. 117-131.

〔論考〕

「人文学の後退戦——文科省通知のショック効果に抗って」、『現代思想』2015年11月号、182-189頁。

「脱構築の約束——生き延びるジャック・デリダ」、『ふらんす』2015年11月号、12-14頁。

「人文学の弁明——国際哲学コレージュの危機から」、『IDE 現代の高等教育』第575号、2015年11月号、47-50頁。

「ヨーロッパにおける知の十字路ストラスブール」、『ふらんす』2016年2月号、19-20頁。

〔翻訳〕

ジャック・デリダ『哲学への権利』第二巻、西山雄二・立花史・馬場智一・宮崎裕助・藤田尚志・津崎良典訳、みすず書房、2015年、全480頁。

Michel Deguy, *Prose du suaire*, Al Manar, 2015, 「屍衣の散文的賛歌」, pp. 31-32.

ジャン＝クレ・マルタン「ドゥルーズとデリダ、両者の運動は同じではない」西山雄二・大江倫子訳、『人文学報』第511号、2015年6月、31-42頁。

パトリック・ロレッド「動物は人間のように愚かであることができるか——デリダとドゥルーズをめぐる「超越論的愚かさ」について」西山雄二・小川歩人訳、『ドゥルーズ 没後20年新たな転回』、河出書房新社、2015年、172-181頁。

ブリジット・プロスト「演劇における死——遺骸と幽霊」榎本恵子・西山雄二訳、『人文学報』、第512-15号、2016年3月、3-26頁。

フランチェスコ・ヴィターレ「テキストと生物——生物学と脱構築のあいだのジャック・デリダ」西山雄二・小川歩人訳、『人文学報』、第512-15号、2016年3月、167-190頁。

パトリック・ロレッド「死、動物そして触覚——デリダによるハイデガーの動物の脱構築」桐谷慧訳、『人文学報』、第512-15号、2016年3月、125-140頁。

パトリック・ロレッド「人間の倫理は供犠的か——倫理の脱構築をめぐるデリダとレヴィナスの論争」横田祐美子訳、『人文学報』、第512-15号、2016年3月、141-166頁。

【学術会議開催実績報告】

Patrick Llored パトリック・ロレッド氏（リヨン第三大学）連続セミナー

「デリダの動物哲学 La philosophie animale de Derrida」

全4回とも使用言語：フランス語、日本語翻訳配布、通訳付 入場無料、事前予約不要

2015年7月7日（火）17.00-20.00 早稲田大学（戸山）33号館3階第1会議室

「供犠、暴力、正義の可能性——国家をめぐるデリダとベンヤミンの論争」

"Le sacrifice, la violence et la possibilité de la justice. Le débat sur l'Etat entre Derrida et Benjamin »

司会＝藤本一勇（早稲田大学） コメント＝鵜飼哲（一橋大学）

主催＝早稲田大学文学学術院 表象・メディア論系、脱構築研究会

2015年7月8日（水）16.30-18.00 首都大学東京（南大沢）本部棟2階 特別会議室

「動物たちは死ぬのか？——動物、死、私たち」

"Les animaux meurent-ils ? L'animal, la mort et nous"

司会＝西山雄二（首都大学東京） 主催＝首都大学東京・傾斜的研究費「日本における「フレンチ・セオリー」の受容と展開」

2015年7月9日（木）17.00-20.00 大阪大学（吹田）人間科学部東館303

「動物たちは人間たちと同じく、愚かになることができるのか？——超越論的愚かさをめぐるデリダとドゥルーズの論争」

"Les animaux, comme les humains, peuvent-ils être bêtes ? Le débat sur la bêtise transcendante entre Derrida et Deleuze »

司会＝檜垣立哉（大阪大学） 主催＝科研費（基盤B）「ドゥルーズ研究の国際拠点の形成」

2015年7月10日(金) 17.00-19.00 立命館大学(衣笠) 末川記念会館・第三会議室

「人間の倫理は供犠的なものか? —あらゆる倫理のアポリアをめぐるデリダとレヴィナスの論争」

"L'éthique humaniste est-elle sacrificielle? Le débat sur les apories de toute éthique entre Derrida et Levinas »

司会=加國尚志(立命館大学)、亀井大輔(立命館大学)

主催=科研費(基盤C)「遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明」、立命館大学間文化現象学研究センター

Journée d'étude "French Theory" au Japon

Date: Samedi 19 mars 2016 10h00-19h00

Lieu: Grande salle, Maison Heinrich Heine, Fondation de l'Allemagne, 27 C bd Jourdan, 75014, Paris

Sous la responsabilité de Yuji Nishiyama, Gisèle Berkman et Jérôme Lèbre

Organisé en collaboration avec l'Université métropolitaine de Tokyo et The University of Tokyo Center for Philosophy (UTCP)

Programme

I. 10h00-12h00

Liotard: Futoshi Hoshino (Université de Tokyo)

Duras: Mirei Seki (Université de Rikkyo)

Commentaire: Jiang Dandan (Université de Shanghai, CIPh) et Oike Sotaro (Université Paris 7)

II. 14h00-16h30

Barthes: Kohei Kuwada (Université de Tokyo)

Blanchot: Kai Gohara (Université de Tokyo)

Commentaire: Gisèle Berkman (ancienne directrice au CIPh)

III. 16h45-19h00

Foucault: Jun Hirose (Ryukoku University)

Derrida: Yuji Nishiyama (Université métropolitaine de Tokyo)

Commentaire: Jérôme Lèbre (CIPh)

Clôture: Yasuo Kobayashi (Université Aoyamagakuin)

【科学研究費補助金への応募状況, 採択状況】

応募1件、採択1件。

平成27年度科学研究費助成事業(国際共同研究加速基金(国際共同研究強化))、採択、12,740千円(直接経費9800千円/間接経費2940千円)

【国等の提案公募型研究費, 企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

・なし

【受賞等】

・なし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献, 生涯学習支援・普及啓発, 国際貢献・国際交流等]

・なし

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

(工業所有権の名称, 発明者, 権利者, 工業所有権の種類・番号, 出願年月日, 取得年月日)

・なし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名, 所属, 金額 (円))

・なし